

ペットと食中毒

近年、ペットブームといわれて久しいですが、今では15歳未満の子どもの数よりペットの数の方が多いというから驚きです。

今回はかわいいペットの食中毒予防…ではなく、ペットが原因となる食中毒についてのお話です。

●ペットが関係する食中毒の例

サルモネラ

犬、猫、鳥類は腸内にサルモネラ菌を保有している可能性があります。また、は虫類はかなりの確率で保有していることが知られており、海外ではミドリガメからの感染事例も報告されています。

カンピロバクター

細菌による食中毒の中では最も多く、鶏肉の取扱いの注意はよく言われます。実は犬、猫、鳥類の腸内にいるといわれています。

腸管出血性大腸菌(O-157など)

もともとは牛などの腸内にいたものが、牛肉を生焼でペットに与えることでペットがその菌を保有して便と一緒に排泄することがあります。

腸炎ビブリオ

海水中に潜み、魚介類を通じて食中毒を起こす菌ですが、熱帯魚などの水槽に潜んでいることがあります。

●家庭で注意して欲しいこと

- 便などの汚物を取り扱った後は、必ず十分な手洗いをを行う。
- 動物に口移しで食べ物を与えるなどの過剰な接触はしない。
- 人に下痢などの体調不良があったときは早めに受診する。その際に動物を飼育していることを伝える。

ペットが健康そうに見えても食中毒菌を保菌し、便と一緒に排出していることがあります。家族同様のかわいいペットではありますが、家族の一員が食中毒の原因になってしまうのは残念なことです。私たちも、手洗いなどをしっかりすることでペットとの楽しい生活を続けたいものですね。

ペットの健康管理も大切です。身体をきれいにして、調子の悪いときは獣医の診察を受けましょう。

東海コープ
ホームページに
「おいしくって、
安全なおはなし」の
バックナンバーが
あります。



2018年
2月3週
(7号)

東海コープからの
おいしくって、
安全なおはなし

